

文 部 科 学 大 臣 賞

『おいしい給食』は多くの人の努力の“結晶”』

埼玉県さいたま市立仲町小学校 四年三組 男子 堀山 喜史

「好きな教科は何ですか？」とたずねられるたび、ぼくは「はいっ、給食です」と一年生のころから即答してきた。一年生の初めての通知表で給食は絶対◎（二重丸）か🌸（花丸）がついていると信じていた。ワクワクしながら家に帰って開けた通知表の教科のらんに給食がどこにもなかったショックは三年たった今でもはつきりとおぼえている。それにもかかわらずぼくは相変わらず給食がピカ一大好きな気持ちは、1mm（ミリ）もかわっていない。さすがに学年末の文集で好きな教科に“給食”と書いたのが千人近くいる全校生徒の中でぼく一人だった時には、いつもはのんきなお母さんも頭をかかえこんでいた。お父さんは「給食は食べる時間で、食べることは人が生きるということだから、感謝して生きること」を学ぶ大切な学びの時間であることはまちがいない」と大きくうなずいてくれた。今年一年生に入学した弟も「ぼくも給食が一番好きな教科なんだよなあ」と言ってくれたのでうれしかった。ぼくたち三人のやりとりをそばで聞いていたお母さんがますます頭をかかえこんでいたのは見なかったことにしよう…。

ぼくの通う小学校の校歌の中に『日本の〜』というフレーズが何度もでてくるのだが、ぼくは歌にはない“給食”も『日本一』だと自まんできる。栄養士のA先生は給食だよりはもちろん口頭でも給食について語りだしたらもうだれにもとめられない。校長先生でも多分無理だ。「それだけ給食に愛情をこめてくださっている証こよ」とお母さんが言った。そういうお母さんは年に一度保ご者対象の給食試食会には毎年必ず予定をあけてスキップしそうな勢いでやって来る。ひそかにぼくはお母さんも小学生のころ給食が一番好きな教科だったんじゃないかとにらんでいる。給食大好きDNAはお母さんから遺伝したのかも。ぼくのお父さんの実家はけん業農家なので帰省するたびでっかい田んぼや畑を汗だくにくになって家族みんなでがんばる。だから食事をする時お米や野菜を食べながら『おいしく育ってくれて、ありがとう。』という気持ちがおなかの底のほうからわきあがってくる。

ぼくは毎年身長もぐんぐんのびているし体重もどんとふえた。ぼくの成長はぼく一人の力では決していない。農業、漁業、畜産、らく農・教え上げればきりがないほどたくさんの人達の、苦労や協力で支えられているのだ。自分が家族の一員として田んぼや畑を手伝いに出るチャンスがあるから分かったことがたくさんある。おいしい物には、かげでそのおいしい物を作ろうとがんばってくれた人々の努力が必ずあるということ…。ぼくがお世話になったようち園では「仏様、お父様、お母様、先生、みなさん、いただきます。」とあいさつをしていた。小学校では「いただきます。」だけになったが今でも心の中ではそう言っている。